

4. 2 2年次研究開発計画

研究内容	研究方法	研究評価方法
<p>①読むことの指導—正確に読んで理解するための教科書精読指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数制クラス編成の英語Ⅱ各課で、さまざまなタスクを違った角度から与えることによって、理解の定着を図る。 ・各課に入る前に全員で予習プリントの情報交換をし、指導する内容・方法を確認する。 ・生徒の間違いを分析し、個別指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査で読解力を評価する。 (年5回、絶対・相対評価) ・GTECによりreadingの評価を行う(4月・12月) ・課ごとのプレ・ポストテスト(絶対評価) ・英検2級テスト(4月・1月) ・英語科教員や他教科の教員の授業の変化を自己評価及び相互評価する。 ・研究対象生徒(普通科)の学習に取り組む姿勢を観察評価する。 ・アンケートによる自己評価を行う。 (4月・10月・1月) ・授業改善事例集の自己評価をする。 ・外部英語教員や生徒・保護者のアンケートにより評価する。 ・研究対象生徒(普通科)の学習取り組み状況や読書量と速読力伸長度をポートフォリオで評価する。
<p>②読むことの指導—インプット量確保のためのGRの多読指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方法は第一年次と同じ。ただし、第二年次はさまざまな難易度のGRを用意し、生徒に選ばせる。 ・発表に関しては、第一年次では多くの発話を生徒にさせることが大きなねらいだったが、第二年次では正確さにも注意を払う。 ・生徒の間違いは分析し、個別指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・発表時の観察評価
<p>③読むことの指導—正確に読むための読解スキル指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一年次に扱った読解スキルを定着させるための指導を継続するとともに、文章の特徴に応じた読み進め方を指導する。すなわち、比較による説明文・対照による説明文・例証による説明文・分類を表す説明文・原因と結果を表す説明文・過程をしめす説明文・論証文など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査で読解力を評価する。 (年5回、絶対・相対評価) ・研究対象生徒(普通科)の学習に取り組む姿勢を観察評価する。 ・アンケートによる自己評価を行う。 (4月・10月・1月)
<p>④読むことの指導—速読指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一年次とは異なり各課の始めに実施する。本文の内容把握に入る前に、③にある文の特徴を、速読教材を用い背景知識の1つとして指導する。解説の時間も可能な限り確保する。 ・授業中に速読として読み、教師の解説も聞いた生徒は帰宅後同じ本文で精読も行えるよう、教材選定に配慮し、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(年5回。絶対・相対評価) ・アンケート(4月・10月・1月) ・観察評価

⑤読むことの指導—本文要約指導	<ul style="list-style-type: none"> ・③で読解スキルとして学んだ事を書く作業にも応用させる。 ・第一年次よりも正確さに重点を置き、生徒の誤り分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・発表評価 ・アンケート（４月・１０月・１月）
⑥CALL教材を用いたネイティブ教師単独授業による聞くことの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・20人制の週1回の「ライティング」で、予習プリントを用いたlistening指導を実施する。WordやPower Pointを用いた発表も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表評価 ・ポートフォリオ ・GTEC（４月・１２月） ・小テスト ・アンケート（４月・１０月・１月）
⑦CELLの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ室の開放だけでなく、授業中のインターネット利用、Word講習等、生徒の学習環境整備に努める。CALL教材は、第一年次同様、生徒に一人一枚ずつ配付し、自宅での学習を可能にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート（４月・１０月・１月）
⑧ ^h ワークやグループワークを用いた、生徒の表現力を高める指導	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての科目において^hワークやグループワーク等書く・話す活動を多く取り入れ思考力や創造力を表現力に結びつける指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート（４月・１０月・１月） ・観察評価
⑨他教科や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業、講演会、「総合的な学習の時間」の取り組み、基礎学力テストの実施を通して連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・意見交換

2年次研究開発内容と評価（経過報告）

読むことの指導——読解力育成のためには、2年次に文章を正確に読む必要がある。

読解力育成のためのパラグラフの理解は、2年次にパラグラフの基本展開法を理解する。

読解のための背景知識の1つとして、原因結果・分類・比較対照・意見主張といったパラグラフの基本展開法を各課の導入として学習し、また教科書各パートにおいてもパラグラフの構成をフローチャートにして、ディスコースマーカーとともに前もって背景知識として理解し、読解すれば、理解は深まると考えた。

読解力育成のためには、1年次に引き続き読解スキルを練習する。

1年次に扱った、スラッシュ読み・文の連結・スキッピング・スキミング・語の予測推測を継続練習し、更なる定着を図る必要があると考えた。

読解力育成の計画 2年次（英語Ⅱ）

指導内容	定期考査
パラグラフ展開法を概要把握のフローチャートにして理解させる。	主題文の選択，題名選択，クローズテスト
ディスコース・マーカ－の理解	ディスコース・マーカ－の選択
要約	要約文完成
概要把握	(応用問題) 主題文の選択，題名選択
TF 問題	(応用問題) 内容に関する問い
語彙	文脈に沿って語形変化させ選択補充，英語による定義にあたる語の選択
熟語	文脈に沿って補充
文法	文脈に沿って補充
行間読み	文完成
指示語	(応用問題)
語整序	語を並べ替え文完成
文整序	文を並べ替え段落完成
文挿入	1文を適切な段落に補充

指導内容（2年次）

1 ワークシートの共通化

ワークシートのうち、パラグラフの展開を示すフローチャート、そして代名詞、指示語、文法事項等読みの正確さのための共通部分を担当者で話し合いにより決め、授業で使用する。

2 基本的なパラグラフ展開法（速読）

教科書の本文が基本的なパラグラフ展開法で書かれていることは少ない。そこで、原因結果・分類・比較対照・意見主張といったパラグラフの基本展開法を各課の導入部分で教え、定着を図る。また、ワークシートの中で、ディスコースマーカ－の知識も増やす。

3 読解スキル

1年次に続いて、授業中、スラッシュ読み・文の連結・スキヤニング・スキミング・語の予測推測等について、ペアワーク・グループワーク等の活動を通して定着させる。

4 Graded Reader による多読

1年次とはほぼ同様月末に1回授業中に発表活動を入れる。2年次は「正確さ」を求める学年と位置づけているが、多読においては「正確さ」は求めず、生徒に楽しんで英文を多く読ませることを主眼とする。1年次に全生徒に同じレベルの本を読ませたが、さまざまな英語力を持った生徒に必ずしも合わなかったため、2年次においては様々なレベルの本を生徒が自ら選び読み進める。

5 英単語テスト

語彙力不足が GTEC 結果で指摘されたため、英単語テストを年5回から17回に増やした。真剣な取り組みをさせるため、6割で合格というしほりをかけ、不合格者には追試や課題を用意した。語彙力増強については、英検 CAT(Web 教材)を通して、英検 2級レベルの語彙問題も、夏休みの宿題の一部として生徒に課した。冬休みの課題では 100%まで終了させることを予定している。

6 授業中に教員が使用する英語の量
授業は半分以上を英語で進める。

聞くことの指導

『ライティング』（2単位）の授業で、週1回コンピュータ室でCALL教材を用いて聴くことの指導をする。授業中CALL教材を聴かせている間に、同時進行で実施した、CALL学習内容についての個別指導を今年度はNTEが担当することでより効率的に生徒の聴く力が伸ばせると考えた。

またNTEが担当する利点を活かし、次の3点に重点を置いた指導が効果的と考えた。

- 1 CALL教材の理解を深め、多量に長時間記憶させる。
- 2 教材やNTEの発話を通して、自然な速さの英語を生でできる限り多く生徒に与える。
- 3 個別指導を通して自学自習を促し、教材の理解を深めさせる。

NTEによるCALL授業

授業内容	試験
CALL (<i>American Daily Life</i>) 学習	True/False, 選択肢, ディクテーション 5 Point Maximum, Weekly quizzes
個別指導	Q&A (授業内) 平常点の範囲内で

1年次にJTEが行ったCALL授業をNTEが単独で行い、評価する。

読んだり聞いたりした内容を表現する指導

『英語Ⅱ』（日本人教師単独授業）における表現力をつけるための指導

サイドリーダー発表

読むことの指導の一環で月一冊のサイドリーダーの読書を生徒に義務づけている。そこで読書したものを自分の言葉で他人に伝えるという活動を通じて、表現力の育成につなげようというのがサイドリーダーの発表活動である。生徒はグループ（4～5人）を作り、用意してきたブックリポートをもとに、グループの他の生徒に向けて自分の読んだ本の登場人物やあらすじなどを英語で説明し感想を述べる。発表者でない生徒は、発表者の発表の内容を評価する。

プロセスライティング

プロセスライティングではライティングを直線的な一方通行の作業としてとらえるのではなく、**Planning/Drafting/Revising/Editing** というプロセスを幾度となく繰り返して最終稿にたどり着く、再帰的・循環的な作業ととらえる。生徒はプロセスを踏襲しながらも、教師や他の生徒からのフィードバックを参考にしながら、自らのライティングを絶えず吟味し、練り直し、書き直す。添削後にいかに自分のライティングに対する思考を深め、より良い作品に仕上げていくのが大切であり、プロセスライティングの考え方ではとても自然に必要な作業である。

Write Up 活動

生徒は年回5回のWrite Up活動を行う。日本人教師(JTE)はライティングの教科書であるWorld Trekの中からトピックを選択して、生徒にライティングの目的と読者を設定する。生徒はトピックについて自ら考え、ハンドアウトにある注意点やヒントを参考にして第1稿を仕上げる。第1稿は日本人教師に提出

され、添削される。添削された第 1 稿は生徒に戻されて、生徒は添削されたことを参考に第 2 稿を作成する。第 2 稿は最終稿になるまでライティングプロセスを繰り返して練り直される。

パラグラフライティング

英語Ⅱでは、基本的なパラグラフ構成法を学習し、パラグラフの理解の上に読む指導を展開している。また、『ライティング』の授業で上記年 5 回の **Write Up** 課題をこなし、プロセスライティングも学習させている。このタスクの狙いは、①英語Ⅱで学習した基本構成法のディスコースマーカーを使って作文する。②プロセスライティングで学習したことを決められた時間内に実行する練習をする。③コンピュータ画面上に記録が残っているのでそれを利用してアドバイスを受け、rewrite する練習をする、ことにある。